

森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題名：「音の無い森」 撮影地：伊豆市 撮影者：窪田 隆氏（川崎市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohito.jp>



INDEX



年頭挨拶

静岡県山林協会会長 鈴木康友
静岡県知事 川勝平太



支部だより①（西伊豆町産業建設課）

森林整備と林業6次産業化について



地域の取組（浜松市）

森林認証の年次監査



支部だより②（静岡市中山間地振興課）

テーマは「木育」。
首都圏自治体と連携した「オクシズ材」活用促進の可能性



県庁だより（経済産業部 森林・林業局 森林保全課）

台風15号災害に係る山地等被害及び対応について



本部情報

治山・林道コンクール(全国コンクール)
林業への就業支援について

謹賀新年



公益社団法人 静岡県山林協会
会長 鈴木 康友

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

会員はじめ関係者のみなさまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、当協会の各種事業の推進並びに運営につきまして、多大なるご支援とご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年9月に発生した台風15号による大雨は、県内各地に甚大な被害をもたらし、森林関係も多くの土砂崩れが発生しました。近年、記録的豪雨が頻発化しており、更なる災害に強い森林づくりの必要性を感じております。

また、近年は、SDGsや脱炭素化に対する社会全体の意識が高まり、持続可能な社会の実現に取り組む民間企業等が増え、公共建築物だけでなく民間物件への木材利用の機運が高まっています。

2025年に開催予定の「大阪・関西万博」においても、関連施設に多くの木材が使用されると聞いております。

このような様々な変化が起こる時代において、森林の持続的な経営・管理や地域材の利用拡大は非常に重要です。

当協会につきましても、県民の利益増進のため「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでいきますので、本年も会員みなさま方の変らぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びにあたり、会員みなさまの益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

令和5年 元旦



静岡県知事
川勝 平太

年頭の御挨拶

明けましておめでとうございます。

貴協会の皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃から県の森林・林業行政に多大なる御支援と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

静岡県では、本年度から新しい総合計画がスタートし、持続的な発展に向けた新たな挑戦として、デジタル社会や環境と経済が両立した社会の形成を進めています。森林・林業分野においては、SDGsの目標達成や2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組が世界中で進む中、CO₂吸収や災害防止、木材生産などの森林が有する多面的機能を持続的に発揮するため、森林資源の循環利用や森林の適切な管理・整備の強化がますます重要となっております。このため、先端技術の活用による林業の成長産業化や森林分野のDXなどを推進するFAOIプロジェクト(Forestry Action Open Innovation プロジェクト)に取り組んでまいります。

また、昨年9月に県中・西部地域に甚大な被害をもたらした台風15号など、激甚化する自然災害に対する備えも必要です。治山事業による山地災害対策、森の力再生事業による荒廃森林の整備、「ふじのくに森の防潮堤づくり」などを着実に推進し、県民の皆様の安全・安心の確保に努めてまいります。

今後も、環境・経済・社会が調和した森林づくりを進める「森林との共生」により、「富国・有徳の『美しい“ふじのくに”』づくり」に取り組んでまいります。

静岡県は、昨年8月に日本、中国、韓国の3か国による文化芸術振興を図る取組である「2023年東アジア文化都市」に選定されました。日本の文化の中心、いわば「文化首都」として、食・農業、産業などを通して、日本の文化や芸術の魅力の世界に広く発信すべく、多彩な取組を進めてまいりますので、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の御健勝と御多幸を心から祈念しまして、年頭の挨拶といたします。

支部 だより①

森林整備と 林業6次産業化について

西伊豆町産業建設課

町有林での利用間伐、民有林での経営管理の意向調査、町産材の付加価値向上に向けた取組について紹介いただきました。

西伊豆町の概要

西伊豆町は静岡県の東部、伊豆半島西海岸のほぼ中央に位置します。町の西側は駿河湾に面し、東、南、北の三方は天城山脈及びその支脈に囲まれている渓谷型の臨海山村で、天城山脈一帯及び海岸線の大部分は富士箱根伊豆国立公園区域となっています。全国的にも有名な景勝地である堂ヶ島や黄金崎、また、豊富な湯量を誇る温泉を活用した観光産業をはじめ、駿河湾を舞台とした漁業、天城山系の湧水を活用したワサビ栽培を代表とする農業など、豊かな自然を背景とした生活が営まれています。

ここでは、西伊豆町で進める森林整備および林業6次産業化についてご紹介します。

町有林の整備

町の総面積10,554haのうち森林面積が9,423haと森林が面積の約90%を占めており、森林整備計画対象森林6,968haのうち約6割にあたる4,055haがスギを中心とした人工林となっています。そのうち97%が40年生以上であり資源として活用するには十分な時期を迎えていると言えます。

町では、この豊富な森林資源を活用するため、平成29年度から町有林の利用間伐に取り組み、令和3年度までの5年間で34haの間伐を実施し、約1,600m³の木材生産を行ってきました。

西伊豆町は、前述のとおり急峻な地

形が多く、木材搬出に必要な作業道の作設が困難な箇所が多く、今年度は約27haの間伐を実施する中、作業道は1,100m程に止まり、出来るだけ多くの木材利用を図るため簡易架線集材に取り組み木材の利用促進を図る予定です。



民有林の整備

民有林の整備は、林業事業者が施業の集約化を進め、森林経営計画に基づいて森林整備が行われているところですが、小規模かつ分散した所有形態が多く、施業の集約化の障害になっているのが現状です。また、経営管理に適さない森林においてはまだまだ手入れが行き届かない森林が多くあります。シカによる森林被害や森林所有者の林業経営意欲の低下により、土壌の流出等により森林の有する公益的機能の発揮に影響を及ぼし、その影響は居住区域にまで広がっています。

当町では森林経営管理制度を活用し、令和2年度から森林所有者に対し経営管理の意向調査を開始してい

ます。今後も町内各地区の意向調査を進めつつ、調査を実施した箇所においては、今年度から静岡県山林協会の森林整備アドバイザー支援制度を活用し、アドバイザーの指導・助言をいただきながら、森林整備箇所の選定、経営管理集積計画の策定を行い、民有林の森林整備に繋げることを目指しています。

林業6次産業化

当町の木材産業は、第1次産業の木材生産においては意欲的な事業者の活動により徐々に拡大の傾向が見られるところですが、地域内の木材流通を見ると、建材としての木材のニーズが乏しく、生産された木材はそのほとんどが地域外に出荷され、町内で使用される木材の多くは地域外から購入されるという状況にあります。

このことから、製材や乾燥、加工が行える新たな拠点整備や地域での木材需要の拡大のため地域外でもニーズを見込める木材商品の開発や製材端材を活用した木質バイオマスの利用など地域における林業6次産業化の実現に向け取り組んでいるところで



おわりに

近年の集中豪雨等による土砂災害が問題となり、また、脱炭素社会への取り組みが注目される中、森林に求められる役割は大きく、今後も森林整備を積極的に進め、森林の機能保全および森林資源の利活用に向け取り組んでいきます。

地域の取組

森林認証の年次監査

浜松市

浜松市のFSC森林認証の取組について、第398号(2021年7月15日)で取り上げましたが、このたび審査機関による年次監査が3日間にわたり行われましたので、今回、その初日の様子を取材しました。

はじめに

浜松市内のFSC森林認証は、浜松市が牽引し、天竜林材業振興協議会が取得しました。各森林組合が管理者となる6サイトと、行政が管理者となる市有林、県営林、国有林の3サイト、計9サイトがあり、事務局を浜松市林業振興課が担っています。

FSC認証では、認証取得後、5年ごとの更新審査と毎年行われる年次監査があり、令和4年11月28日～30日に年次監査が行われました。

事務局へのヒアリング

認証林での現地審査に先立ち、審査員による事務局へのヒアリングが行われました。今回の審査員は東京大学名誉教授の白石則彦氏とアマタ株式会社のFSC主任審査員の汐見崇史氏です。事務局は浜松市林業振興課の藤江俊允氏と枝窪圭人氏が対応しました。

はじめに、前回の監査で指摘を受けた事項の対応状況について確認が行われました。固有種や絶滅危惧種といった「高い保護価値」についての再評価、苗木生産における農薬使用、FM認証グループ規約の修正などの事務局の説明に対し、詳細に内容確認が行われました。

次に、各サイトにおける教育訓練や



安全訓練の実施状況、労働災害の状況、出荷材積、薬剤などの化学物質の使用量、実施状況を定期的にチェックするモニタリングの結果について、事務局から報告した後、質疑応答がありました。

このうち労働災害については、令和3年度は、災害の重さを示す強度率は全国平均を下回ったものの、発生の頻度を示す度数率は全国平均より高い結果となりました。素材生産量が多く、産業としての規模が大きい天竜地域であるが故の結果とも言えるものの、審査員からは、全体の傾向を検証して対応策を検討するなど、さらに安全管理に向けた対策が必要ではないかとの意見が出されました。



なお、最終日に行われた審査結果の講評でも、同様の指摘があり、市では、安全な施業に取り組むようグループ内で徹底していきたいとのことでした。

現地審査

現地審査は、サイトごとに行われ、初日は、引佐町森林組合が管理する引佐サイトの2か所で行われました。引佐町森林組合では、施業を事業体に委託して行っています。

はじめに、作業道を開設し利用間伐を行なっている奥山富幕団地です。現場の状況を見て、審査員からは、施業内容に関する質問に加え、「事業体が施業中に組合は確認に来ているか?」、「抜き打ちでの安全パトロールを行っているか?」、「FSCの要求事項について事業体に伝えているか?」、「FSCが求める安全装備を事業体は対応しているか?」など、現場管理について細かく質問がなされ、森林組合の森下吉三参事兼理事が回答されました。



現場で話題になったのが、伐採箇所のかん木の扱いについてでした。

一般的に、伐木作業においては、伐倒の際など作業中に危険を生ずるおそれのあるかん木等は取り除くこととされていますが、天竜林材業振興協議会の定める森林作業共通仕様書では、自然植生維持の観点から、間伐作業における環境配慮項目の一つとして「掃除伐の際は、安全性と植生確保のバランスを考慮しながら、

可能な限り下層植生の確保に努めること」としています。

この現場では、林内に下層木がかなり密に生えていたため、作業の安全性を優先して下層木が除去されましたが、現場の状況によっては、安全性と植生確保を両立させることが難しいことがうかがえました。



現場作業員へのインタビュー

次に向かった先は、架線集材で利用間伐を行った渋川団地でした。まずは現場作業を担当者が説明し、質疑応答が行われました。ここでは、架線の張り方や集材方法など、架線現場ならではの質問が多くされていました。



その後、事務局とサイト事務担当者が離れた場所に移動する様に指示され、実際に作業を行った現場作業員だけに直接聴き取りが行われました。森林作業共通仕様書で定められた内容について十分理解されているかどうかを審査員が確認するためです。

現場の浸透具合を確認するためのこのヒアリングには、少々驚きを感じたものの、審査の信頼性を重視していることがよく理解できました。



審査を見学して

森林認証制度はとかく環境面から語られがちです。しかし、FSCの理念が、「環境保全の点から見ても適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理」であり、環境・社会・経済の3つの視点に基づき「10の原則」が設けられているように、環境だけでなく、労働環境や地域社会との共生など様々な取組が求められています。労働安全の重視など今回の審査状況を見て、改めてそのことを認識しました。

また、書類、現地とも、認証の基準と照らし合わせて問題はないか、FSCの理念が関係者に共有されているかに

ついて、第三者機関により厳正に審査が行われていることを実感しました。

おわりに

前回の取材で、森林認証を取得するに至った経緯について、「歴史ある林業地が『育てる林業』から『売る林業』へ転換するために、環境ブランドとしてFSC森林認証の取得にという流れになった」と浜松市から伺いました。

今回、森林認証の意義についてどのように捉えているか伺ったところ、「国際基準での森林管理を行うことで、よりレベルの高い施業に繋がると考えています。また対外的にも、適切な森林管理の説明責任を果たすとともに、PRとしても活用しているところで」との回答をいただきました。

天竜地域の約5万ヘクタールもの森林において、FSC森林認証の基準の下で「責任ある森林管理」が地域を上げて行われていることがより広く知られ、天竜材のブランド力が一層高まることを期待しています。

FSC 10の原則

原則1	法律の遵守 (法律や国際的な取り決めを守っている)
原則2	労働者の権利と労働環境 (労働者の権利や安全が守られている)
原則3	先住民族の権利 (先住民族の権利を尊重している)
原則4	地域社会との関係 (地域社会の権利を守り、地域社会と良好な関係を保っている)
原則5	森林のもたらす便益 (森林のもたらす多様な恵みを大切に活かして使っている)
原則6	森林の多面的機能と環境への影響 (環境を守り、悪影響を抑えている)
原則7	管理計画 (森林管理を適切に計画している)
原則8	モニタリングと評価 (管理計画の実施状況を定期的にチェックしている)
原則9	高い保護価値 (保護すべき価値のある森などを守っている)
原則10	管理活動の実施 (管理活動を適切に実施している)

※FSC日本のホームページから

支部 だより②

テーマは「木育」。 首都圏自治体と連携した 「オクシズ材」活用促進の可能性

静岡市中山間地振興課

森林環境譲与税により木材利用を進める首都圏自治体と連携した、「オクシズ材」の需要拡大の取組について紹介いただきました。

令和元年度の森林環境譲与税配分開始以降、森林のない首都圏の自治体では、森林を持つ自治体と連携した木材利用等の普及啓発活動が見受けられるようになりました。森林を多く有し首都圏へのアクセスも良い静岡市ではこれを好機と捉え、「木育」をテーマに、首都圏自治体と連携した静岡市産材「オクシズ材」の需要拡大を狙っています。今回は、譲与税配分以降の静岡市の取組を紹介します。

従来～住宅での利用～

オクシズ材に限らず、国産材の主な利用先は建築用資材としての活用です。そのため、静岡市では譲与税配分以前よりオクシズ材活用協議会と連携し、住宅、こども園等の公益的施設や商業施設を新築・建替・増改築する方を対象に、使用する柱や土台などの構造材や内装材を提供する事業を実施しています。この事業は毎年計300棟以上で活用されており、市内での木材活用に大きな効果を生んでいます。市内の住宅着工件数や活用が今後急増するような見通しは薄く、オクシズ材の新たな需要拡大を行っていくことが必要と考えていました。

注目したのは「木育」

このような状況下で、静岡市は「木育」に注目しました。その要因はいくつかあり

ますが、主な要因は以下の2点です。

ひとつは、これまでの木材利用者層の多くが30～40代のファミリー層である点です。子どもができた家を新築する際に木材を利用しているため、元から木材利用に対する一定の理解があり、消費の窓口を広げる先として、子どもの成長にアプローチした「木育」は有効であると考えました。

もうひとつは、市外消費地候補である大都市の自治体が、森林環境譲与税を木製品購入に活用していた点です。譲与税が配分されはじめ各自治体で活用方法が示される中、森林を持たない首都圏等の大都市では、学校で使用する机や遊具等の木製品を導入する事例が多く見受けられました。

木材活用や木育事業に森林環境譲与税を活用している自治体に焦点を当て、自治体連携で木製遊具を利用してもらい、オクシズ材の魅力を伝え、都市部でのオクシズ材認知向上や製品利用による需要拡大を図る。このような考えのもと、静岡市は「木育」をテーマとしたオクシズ材活用に取り組むようになったのです。

製品開発と活用

まず取り組んだのは、利用してもらうための木製遊具開発です。これまでに地元の企業等と連携し、天然木製ブロック「シズレンガ」や移動可能な木製すべり台を開発し、首都圏幼稚園等でのモニ



▲イベント出展の様子

タリングや自治体イベント参加を通して連携を深めています。開発時期と新型コロナの時期が重なったこともあり、首都圏のイベントについては参加することが難しい情勢が続いておりましたが、最近では川崎市のイベント「川崎駅前やさしい木の広場」に出展するなど、少しずつ都市部自治体での活動を開始しています。

また、オクシズ材での木育をPRするための拠点として、静岡市駿河区にある「駿府匠宿」のリニューアルにあわせて木育スペースを整備しました。整備にあたっては、ものづくりの基本である「算数」をコンセプトに、静岡大学の学生のアイディアを形にした遊具を多数制作したほか、オクシズ材の内装でも算数を意識できるような工夫が多数施されています。



▲オクシズ材PR拠点

静岡市に馴染みの薄い地域、特に全国からモノの集まる大都市でオクシズ材の魅力を伝えるためには、何かしらの形でオクシズ材と触れ合う機会を作りだすことが大前提となります。これからの、行政だからこそ実施できる「自治体連携」という方法を活かし、オクシズ材需要の拡大、木材利活用を模索していきます。

県庁 だより

台風15号災害に係る山地等 被害及び対応について

経済産業部 森林・林業局 森林保全課

台風15号による山地災害の応急対策や復旧を目指して進めている治山事業について紹介いただきました。

令和4年9月23日未明から24日午前中にかけて、台風15号が県内に襲来しました。伊久美観測所(島田市)において時間雨量127mm、最大24時間雨量544mmを観測する等、県内の広い範囲で猛烈な豪雨が降りました。静岡市から浜松市を中心に83件の山地被害及び治山施設被害が発生し、被害総額は約37億円に達しました。単独の災害としては記録の残る範囲で平成16年の台風22号災害を超え、過去最大の被害額となる未曾有の災害となりました。

県は、災害関連緊急治山事業を県内7箇所で開催する等、被災山林の早期復旧に努めています。

災害	主な被災地区	箇所数	被害額(千円)
令和4年 台風15号	中部～西部	83	3,684,019
令和2年 梅雨前線豪雨	中部～西部	28	1,795,593
令和元年 台風19号	賀茂・東部	57	1,429,696
平成26年 台風18号	中部	62	1,386,000
平成23年 台風15号	全域	77	2,545,900
平成22年 台風18号	小山町	42	2,139,078
平成16年 台風22号	全域	104	3,155,080

▲過去の主要災害における山地災害関連被害
(森林保全課調べ)

磐田市神増では、磐田原台地の縁にあたる天竜川の河岸段丘斜面において山腹崩壊が発生し、直下を走る主要地方道磐田天竜線に大量の土砂が流出、約1か月にわたり通行

止めとなる被害が発生しました。

県は、直ちに現地調査を行い、山林内に残存する大量の土砂が道路に流出しないよう、道路管理者と緊密に調整し、土砂流出防止の応急対策を実施しました。

この対策には、これまで、ほぼ活用実績のない災害関連緊急治山事業の応急復旧工事を活用し、被災後2週間で国庫事業に着手するという、迅速な初動対応につながりました。

その結果、応急復旧工事の完了後、11月下旬に時間雨量33mmの豪雨が発生しましたが、道路への被害はわずかな土砂流出のみに抑えることができました。

今後は、本復旧工事として発生源となった崩壊地の山腹工事及び溪間工事に着手し、令和6年度中の事業完了を目指し事業を進めていきます。



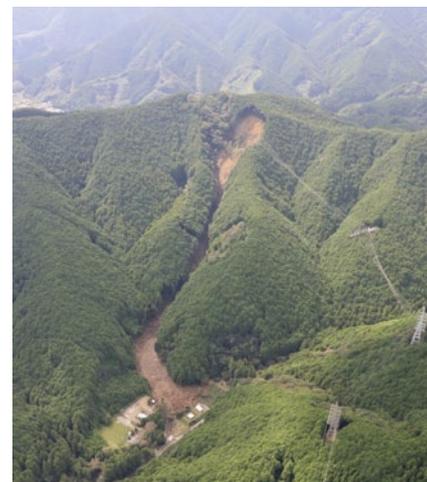
▲被災時の状況
(提供：(株)バスコ/国際航業株)



▲応急復旧工事後の状況

静岡市葵区足久保口組では山腹崩壊に伴い送電線鉄塔が倒壊し、静岡市内の約12万戸が一時停電となる被害が発生しました。崩壊土砂は土石流となり溪流を流下し下流河川を閉塞させ、農道・市道・林道にも被害を与えました。溪流内には未だ不安定土砂が大量に残存していることから、災害関連緊急治山事業で谷止工を計画しました。

山腹崩壊地は電力会社の鉄塔の撤去・移設復旧工事が必要であり直ちに着手ができないことから、後年度の復旧を計画しています。



▲被災時の状況
(提供：(株)バスコ/国際航業株)

その他の箇所においても、復旧治山事業等の公共治山事業、県土強化対策事業(治山)等を積極的に活用し、早期の復旧を目指していきます。

本部情報

治山・林道コンクール(全国コンクール)

一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会主催の令和4年度治山・林道コンクールにおいて、以下の方々が受賞されました。表彰式は11月16日に東京で行われました。

部門	受賞者名	賞
民有林治山工事コンクール	(株)中山建設	一般社団法人日本治山治水協会会長賞
民有林林道工事コンクール	ミツヨシ工業(有)	日本林道協会会長賞



林業への就業支援について

11～12月は以下のとおり実施しました。

しずおか森林(もり)の仕事ガイダンス

11月26日、就業相談会「第2回しずおか森林の仕事ガイダンス」を三島市で開催しました。リモートによる相談も合わせて64名の参加があり、新規採用を予定している事業者15社やハローワークなどが、仕事の内容や採用条件などの相談に応じました。



しずおか森林(もり)の仕事見学会

しずおか森林の仕事見学会の第2回を11月19日に島田市で、第3回を12月17日に伊豆市で開催しました。県内外から第2回は5名が第3回は9名が参加し、伐採現場、製材工場及び原木市場等を見学し、林業の仕事のイメージをつかんでいただきました。



シゴトフェア

(主催:(株)アルバイトタイムス)

浜松市(11/5)、沼津市(11/6)、静岡市(11/12)の各会場で開催された合同企業面談会「シゴトフェア」に参加し、林業のシゴトコーナーで県とともに相談に応じました。

転職や新規就業を目指す方が相談に訪れ、林業の仕事の紹介や林業への就業をPRする良い機会となりました。



「第3回しずおか森林(もり)の仕事ガイダンス」を静岡市で開催します。

今年度最後となるガイダンスです。林業に興味のある方や就業をお考えの方は、ぜひ御参加ください。

日時：令和5年2月11日(土) 建国記念の日10時～15時30分

場所：清水テルサ7F(静岡市清水区島崎町)

※予約不要、入場無料です。事前予約でオンライン相談もお受けします。詳細は当協会ホームページを御覧ください。
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止する場合があります。

開催のお知らせ